

平成27年度第2回江別市地域公共交通会議開催結果（要旨）

日 時 平成27年7月23日（木）10時00分～10時36分

場 所 江別市役所本庁舎2階西棟会議室

出席者 高野会長、本間委員、井筒委員、下段委員、大友委員、佐藤委員、
神保委員、和田委員、浜口委員、北川委員
※ジェイ・アール北海道バス(株)より鶴田委員の代理として営業本部営
業部渡部氏、北海道地方交通運輸産業労働組合協議会の今委員の代
理として杉浦氏、江別市土木事務所の合田委員の代理で山内氏が出
席

その他 一般社団法人北海道開発技術センター吉田研究員が出席

次 第 1 開 会
2 協議事項
 (1) バス実証運行について
3 その他
4 閉 会

(高野会長) 協議事項の実証運行について説明願う。

(事務局) 前回の会議では、バス実証運行ルートについての確認をいただいたところで、その運行時期、ダイヤなどの詳細については、入札後に受託事業者と協議をさせていただいた上で、各委員の皆様には別途、提案をさせていただくということを説明申し上げた。

入札の結果について、先週16日に市が委託するバス実証運行委託業務の入札を行い、北海道中央バス株式会社が当該委託業務を受託することとなったものである。

その後、運行時期、ダイヤ、バス停の位置など具体的な運行の内容について調整したので説明させていただく。

お手元の「バス実証運行路線図(案)」をご覧ください。

この路線図は、実証運行のルート図にバス停の位置を加え、さらに進行方向を書き入れたものである。

バス実証運行の時刻表、これは野幌駅の北口、これが左側に記載している。右側には、停留所の一覧を記載している。

赤線がこのルートということになる。前回、提示させていただいたルートである。

バス停は、それぞれの進行方向ごとに色分けをして、下線表示しているのがバス停の名称ということになる。

「野幌駅北口」のバス停が始点と終点ということになる。青色の丸印のバス停については、右下の凡例のところの括弧書きで「錦町先回」と書いているが、野幌駅を出て、右側の6丁目方向に行き、そのまま6丁目を真っすぐ上まで行き、見晴台方面を回って、4番通と8丁目を通って野幌駅に向かうという8の字の流れとなっている。

もう一つは、これと逆方向の流れということになる。凡例のところでは、括弧書きで「野幌寿町先回」と書いているオレンジ色の丸印のバス停の流れになる。

このように双方向での運行を行うもので、1周約9キロメートル、これを25分で回るものである。

バス停につきましては、往路復路それぞれ23カ所で合計46カ所を予定しているものである。

次に、運行ダイヤについて、この図の左側に載せている。これは始点と終点である「野幌駅北口」の時刻表になる。運行時間帯は6時台から21時台まで、「錦町先回」が12便、「野幌寿町先回」が11便の計23便運行するので、運行間隔については、40分に1便というペースで運行するものである。

次に、運行期間について、左下にも書いてあるが、ことしの10月19日曜日から、翌年の2月20日土曜日までの期間で、年末年始の12月29日から1月3日までの6日間を除いて、119日間の運行を予定している。

運賃は、既存バス路線の運賃体系との整合を図る必要があるだろうということで、普通運賃、これは、大人の運賃であるが、これは190円として、小児運賃その他の取り扱いについては、受託事業者の運賃体系を適用するものである。ただし、定期券については、今回は使用しないという予定となっている。

この路線のメリットとしては、運行距離が約1周9キロメートルと短い路線ということもあり、ストレートな路線となっているということで、郊外住宅地から高砂駅、あるいは野幌駅への速達性のある路線であるということ。双方向での運行により、どの方向からでも駅に行けるといようなメリットがあるかと考えている。

以上、概略を説明させていただいた。本日はこれらの内容について確認をいただくこととなるが、ここで協議が調えば、運輸局への実証運行路線の申請手続などを行い、その許可の後、10月からの実証運行を行いたいと考えている。

この実証運行の説明については、以上である。

前日も説明をさせていただいたアンケート調査、これは新しい路線に関するニーズ調査ということで、概略の説明をさせていただく。

この実証運行路線の利用実態、本格運行に向けた改善点ということで、これに付随して、調査を行う予定になっている。

これは、実証運行の利用者に対するアンケート調査ということで、500件を今のところ予定をしており、12月頃を想定している。

内容としては、利用者の属性、性別、年齢、この実証運行路線を利用する理由、利用実態、満足度、本格運行した場合の利用意向などを聞く予定である。

地元の方々の意見を伺う場として、意見交換を行いたいと思っている。これは、自治会等の集まりの機会を通じて、意見の把握をしていきたい。これは主に実証運行路線の沿線地域を想定している。

概略であるが、今回の協議事項の説明を終わらせていただく。

(高野会長) この実証運行というのは、単にこの路線について、将来的に本格的な運行をするという、もちろんそういうこともあるわけだが、こういう実証的な運行路線を走らせることで、いろいろな意見を集約して、また、同じような、別の地区でそういうようなことも考えられるかもしれないし、また、この路線でも、いろいろなさらなる工夫が、いろいろな地域の方から来るかもしれない。

そういう意味では、一つこういうものを実際にやってみて、いろいろな形で

反響だとか意見を吸い上げるということに、大きな意味があると思う。走らせることに加えて、いろいろな調査をしていただくのは極めて重要だと思う。

今の説明の中で、料金は190円で、子供さんなんかは、中央バスの料金体系と一緒にということ。1周25分ということで走らせるという、40分間隔ということ。見晴台から野幌駅北口までは何分かかるのか。

(事務局) 大体、25分の半分くらい。

(高野会長) 見晴台からの始発という意味でいくと、この左の時刻表に13分くらい足していくと見晴台からの利用時間が大体わかってくる。

(高野会長) 如何か。質問、意見をお願いします。
バス停は、既存か。

(事務局) 基本的には、既存のバス停を使用できるものは使用することで考えているが、今回、新設するバス停についても、13か所、新設を予定している。
これについては、若干、説明をさせていただくが、8丁目の国道から4番通の間。これは、特に2番通と4番通の間が、もともとバスが走っていないところなので、この箇所については、バス停を設置する。

(高野会長) 具体的には、何番。

(事務局) ナンバーでいうと、20、21、27、28。それから、ナンバーの26。これは、元々向かい側にはあったが、ここは向かい側にはないということで1か所、新設する予定になった。

6丁目通のナンバー3、4、5、6。ここは、現在、バス停がないので、ここを新設する。その対面の部分、これについても、ナンバー42から45。この8か所についても、新設する予定となっている。

それ以外のバス停については、既存のバス停を活用する予定である。

(高野会長) 他に如何か。その新しいバス停はどんなものが置かれることになるか。普通の既存と同じものになるのか。

(事務局) 同じような仕様のものである。

(高野会長) 他に如何か。利用者のアンケート調査は、12月ぐらいに1回や

るということだが、乗降客はどのように調査されるか。毎日ずっと全便やるのか。

（事務局）回数は、平日と休日、各1日、スポット的になるが、そういった形で調査をしたい。通常の乗降データについては、事業者から提供いただけるような資料があれば、それを活用させていただきたいと考えている。

（高野会長）季節によって、夏場と冬では利用者が変わってくるし、周知がだんだん進むにつれて利用者も増えてくるかもしれない。

（事務局）毎日できれば一番よいが、なかなか難しいということで、平日と休日で各1日くらいをとればよいというふうに思っている。

夏場と冬場で、回数は調整したいと思う。

（高野会長）事業者はどんな形で把握することは可能か。

（本間委員）乗降客は乗務員がカウントしてというところになるかと思う。

（高野会長）バス停で乗った、降りた数はわかるけれども、その人がどこからどこに行ったかというのは、それではわからない。

（事務局）それはアンケートで行う。

（神保委員）新しく新設するバス停の周辺、乗るのは周辺の方だと思うが、住民の方たちの自治会とか、そういう方たちに周知するような方法を考えたかどうか。

（事務局）運行に当たっては、そのような形で予定をしている。あらかじめ、この設置に当たり、地先の方にも意見を聞いて理解いただいているということでは対応をさせていただいている。

今後は広報の中でも含めて、地元の方にも説明させていただきたいと思っている。

（高野会長）説明の際には、地元の方の乗る乗車時間が書かれたダイヤをつくって、なるべく乗っていただけるようなことでやっていかないと、このままだと、自分のところに何分に来るのかというのはわからない。

(事務局) バス停ごとのダイヤは作成したい。

(佐藤委員) 例えば、見晴台35番からオレンジで回って野幌駅1番に行き、13分くらいでいく。ここで降りるが、このバスはそのままループしていくのか。

(事務局) 一旦、第1便が終点の野幌駅北口に着くと、今度はその15分後に逆方向に回っていく。その繰り返しとなる。

(佐藤委員) 例えば、高砂駅で45番に乗って、湯川公園のほうに行きたいと思ったときは、青に乗らなきゃだめだということか。乗りかえないとだめだということか。

(高野会長) 高砂駅から湯川公園に行くには野幌駅で1回降りなきゃいけない。

(事務局) そうです。

(佐藤委員) このオレンジだとそのまま行きそうだ。

(高野会長) 誤解するかもしれない。

(佐藤委員) 湯川公園には行きつかない。青に乗ったら、8の字のぐるっと回って湯川公園に行くことになるということ。

(高野会長) 誤解のないような図面の作り方をしないと、湯川公園まで乗って行けると思うかもしれない。

(神保委員) 赤線を切っておかないとだめだ。繋がっていたら回るかと思う。

(高野会長) それでまた2回料金を取られる。380円になる。如何か。

(神保委員) もし好評であれば、2月20日で終わるのではなく切らないで続けるような可能性はあるか。

(事務局) データをとって検証していく作業が、この後、出てくる。そのまま

続けていければ一番よいが、やはり、そういう目的があるので、そういう手順で進めていきたい。

（高野会長）事業者の判断ということもある。

広報の話は先ほど出たが、ダイヤの路線の広報だけではなくて、バスの乗り方とか、ＩＣカードの使い方とか、そういうものを合わせて広報していただいたほうがよいかもしれない。

他に如何か。

（浜口委員）道路使用も必要になるかと思うが、いつ頃までにいただきたいとかあればと思う。

（高野会長）他に如何か。

（和田委員）このダイヤは、土曜、日曜、祝祭日も含めてのダイヤか。

（事務局）一律ということになっている。

（和田委員）使用する車両の大きさは、平日、休日で強弱をつける考えは。

（本間委員）今のところは考えている。

（和田委員）大体７０、８０人乗れるような。ＩＣカードは使えるものとして考えてよろしいか。

（本間委員）はい。

（高野会長）今回の路線名は何という路線になりますか。

（事務局）まだ決まっていない。その辺は決めたいと思う。

（高野会長）バス実証運行路線とか、そういうかたい名前ではなくて皆さんの記憶に残るようなキャッチコピーなんかを考えていただいたほうがよい。

千歳市は８の字に回るから「蜂」の「ビー」ということで「ビーバス」になった。恵庭市は「エコバス」。

(高野会長) 何かいいアイデアはあるか。

(佐藤委員) それ専用で走らせるわけではないから、最初から最後まで、こういう運行期間というのを見えるところに乗り降りするところに貼るとか、というようなことも必要。

(和田委員) 愛称が決まれば、入り口側、中側のほうのところにしている方向表示機のほうにも、何かそれらしい文字を入れるようなことになるでしょうから、例えば、「えべチュンバス」みたいな感じになるでしょうけれど。正面からだと一目瞭然。中央バスは、後ろも方向表示機がついていたか。LED方式の。

(本間委員) 後ろはない。

(和田委員) このLEDの表示機で、「えべチュンバス」という名前を勝手に出したが、例えば、えべチュンのキャラクターを方向表示機に使おうとすると使用の権利に契約はつくか。

札幌ドームのシャトルバスは、あそこのドームのロゴが入っていたりする。

(北川委員) あれは市の公認キャラクターではない。去年、江別の観光協会がゆるく公認するというので、ゆる公認キャラという位置付けで、それまでは実は全く非公認だったが、江別の観光協会として、ゆる公認キャラとして、それはお互いに無理強いしないが、義務を負わないという感じですから、協議の中で使えるということになれば使える。使わなきゃならない、あるいは、使っちゃいけないというルールはないということなので理解をいただきたいと思う。

(高野会長) 他に何か意見あるか。大体よろしいか。

この路線、バス停、時刻表、運行計画、料金といったような、ただいま説明のあった事柄については、この公共交通会議で承認いただいたということによろしいか。

(各委員) 【異議なし】

(高野会長) 有り難うございました。

付随して出ていた調査に関するせっかくの実証運行実験なので、いろいろな

形で調査をしていただくということで、乗降客調査だとか、そういうものもできる限り多くの機会をやっていただきたいということもあるし、広報の話も出していたので、利用されると思われる地域の方々には特に乗りやすい形で広報をしていただくような手立てを考えていただきたいと思う。

また、その一環として、この名称というものも、わかりやすく、なじみやすいものを考えていただいて、運行していただければと思う。

また、野幌駅で逆方向に行くということもあって、誤解がないような形での地図の作り方もよろしくお願ひしたいと思う。

次回のこの公共交通会議はいつ開催されることになるか。

(事務局) 日程的には未定であるけれども、その運行状況などを見ながら、広報の関係も、いろいろあるかと思うので、また、その時点で調整をさせていただきたい。

(佐藤委員) 最初の1便はテストで乗ることは可能か。

(高野会長) もちろん。19日月曜日の6時45分、野幌発ですね。

(事務局) 検討します。

(高野会長) その辺もテレビ等々で取り上げていただくと、かなり周知の度合いも違うでしょうから、是非そういう方向でも何かやっていただくと。

よろしいか。それでは、どうも有り難うございました。

その他何かあるか。

(事務局) 事務局からは特にはない。

(高野会長) いろいろな関係機関との調整についても、よろしくお願ひしたいと思う。これで終わりたい。